

ビデオ 通信

2020年
10月19日(月)
No.4417

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布5-2-37
DEPECHE MODE 4F
TEL: 03-5422-7515
FAX: 03-5422-7516
E-mail: vt@uni-press.net

映学社

児童劇『フクロウ人形の秘密』が完成 “子どもの作文の映画化”第5弾、テーマは「再犯防止」 完成披露試写会で監督とキャストがコメント



(株)映学社が推進する“子どもの作文の映画化”の第5弾となる児童劇『フクロウ人形の秘密』が完成した。『フクロウ人形の秘密』は、同社が進める“子どもの作文の映画化”第5弾となるもので、「再犯防止」というテーマを“子どもの主観”で捉えたドラマとなっている。第68回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 小学生の部で法務大臣賞を受賞した小学4年生が書いた作文をベースに今日的な再犯防止の問題を加えて脚色、ドラマ制作ではこれまで許可されなかった少年刑務所内での撮影も実現するなど、法務省が全面協力。「受刑者が何故、再犯してしまうのか」について“子どもの主観”で捉えたドラマとなっている。12日には、コロナ禍の影響で約半年遅れとなった完成披露試写会が行われた。

再犯の背景には職と住まいが確保できないことがある

刑を終えて犯罪に走る“再犯者”の割合は2人に1人といわれており、「再犯者をどう減らしていくか」は、安全で安心できる社会を目指す上で最重要課題の1つとなっている。再犯の背景には、刑務所を出所しても職と住まいを確保できず、地域で孤立しがちな事情があり、統計によると再犯する割合は無職者が24.7%に対し、職を得た人は7.7%と3倍以上の開きがあるという。

児童劇『フクロウ人形の秘密』は、法務省が主唱する“社会を明るくする運動”の一環として全国の小中学生を対象に実施されている作文コンテストで法務大臣賞を受賞した小学生の作文に、今日的な再犯防止の問題を加えて脚色したもの。視聴対象は小学校高学年から一般で、全ての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くための一助となることを目指したという。



〈あらすじ〉

ユキは母と訪れた刑務所の即売所で木彫りのフクロウ人形を見つける。そのかわいさが忘れられず、数日後、再び1人で即売所にやってきたユキ。フクロウ人形に見とれていると、女性刑務官（藤田朋子）が声をかけてくれた。

「何で刑務所の中でこんな作品を作っているのですか？」

ユキは女性刑務官に素直な疑問をぶつけてみた。

少年刑務所での受刑者たち。職業訓練の様子を重ねて……。ユキは女性刑務官の話から、罪を犯す少年少女たちには、家庭環境が大きく関わっていることを知る。例えばフクロウ人形を作っている中田ヒロシの場合は……。

ユキの祖父、信治は保護司。罪を犯したものを再生させる手伝いをしている。信治は今まで様々な経験をしてきた。力を尽くしても裏切られ、それでも見捨てないで見守り続けたこと。社会復帰後の成長に思わずうれし涙を流したこと……。ユキは信治の少年少女を見守る眼差しに、強く深い愛情を感じるのだった。

ユキはフクロウ人形との出会いをきっかけに、罪を犯す少年少女が元々凶暴な性格ではないことを知った。厳しい家庭環境、抜け出せない貧困のループ……。ユキは「大きな社会問題だけど、小学生の自分たちにも何かできることがあるはず」と思い始める――

（写真は府中刑務所および隣接する刑務作業常設展示場内で行われた撮影の様子）

「何故、再犯してしまうのか」を“子どもの主観”で捉える

製作総指揮・脚本・監督をつとめた高木裕己氏は「再犯者をどう減らしていくか――これは安全で安心できる社会を目指す上で最重要課題の1つです。再犯の背景には、刑務所を出所しても職と住まいを確保できず、地域で孤立しがちな事情があります。また、虐待や貧困、家庭の問題を抱えて犯罪や非行に走ってしまうことも……もっと理解を深めなければ再犯防止はうまくいかないのではないかと考えています。これまでの“子どもの作文の映画化”作品同様に、「罪を犯して服役した受刑者が、何故、再び罪を犯してしまうのか」というテーマを“子どもの主観”で捉えたドラマにしました」と話す。

制作には、法務省矯正局・保護局と更生保護法人 両全会が企画協力し、これまでドラマの制作では許可されなかった川越少年刑務所での撮影が実現したほか、国内最大級といわれる東京・府中

刑務所の正門や玄関、隣接する刑務作業常設展示場内などでの撮影も行われた。

また、奈良少年刑務所の受刑者が綴った詩集や独房内に置かれた家族の写真等をセットすることで、犯罪を起こした子ども達が原点に帰り、反省し、立ち直っていく様子を描いている。

さらに、出所した少年を保護司が色々な会社に紹介しても、すぐに辞めてしまったり、全く連絡が取れずに無断休職するなど裏切られてしまうようなケースも多い。しかし、最後に保護司とともに立ち直り、社会に出て行く少年の姿や、貧困や虐待で小さい頃から温かい家庭を全く知らずに非行グループから抜けきれなかった少年が、保護司の繰り返しの説得によって立ち直っていく姿も作品の1つの軸となっている。



完成披露試写会で登壇した(左から)福地展成、高橋雄祐、清田美桜、高木裕己氏、藤田朋子

日本にも「再チャレンジ教育」が広まってほしい

撮影は2月中旬に完了、編集、MAのポストプロダクション作業、法務省関係の試写などを経て、4月には完成した。新型コロナウイルス感染症の影響で約半年間遅れてしまった関係者向けの完成披露試写会が12日に行われ、高木氏のほか、メインキャストである女性刑務官役の藤田朋子、主人公・谷川ユキ役の清田美桜、中田ヒロシ役の福地展成および酒井哲也役の高橋雄祐が登壇し、

同作品や「再犯防止」に対する想い、撮影時のエピソードなどについて語った。

高木氏(写真→)は「法務省矯正局長、保護局長、官房長室の幹部たちにこの作品を見てもらいましたが「子どもの視点でよく描かれており、今まで法務省にはない映画になっている」と高い評価を得ました。この映画で一番伝えなかったことは、日本では何か一度失敗してしまうと悪いレッテルが貼られてしまい、その人が二度と立ち上がれないような噂が広がっていく社会が目立ちますが、北欧では何か失敗しても立ち上がろうとする人を認めようという「再チャレンジ教育」を小学校の頃から行っている。日本にはそういう部分が足りないことを強く伝えることができれば、再犯防止を強く訴える作品になると思っています。毎年7月は“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間ですが、今年はコロナ禍の影響でこの作品を広く上映することはできませんでした。来年の7月に向け、法務省もこの作品を



児童劇映画『フクロウ人形の秘密』

文部科学省選定 社会教育(教材) 少年向き・青年向き・成人向き 地域社会生活(人権)
制作・著作:映学社/後援:法務省/企画協力:更生保護法人両全会
企画・制作統括:高木裕己/脚本・監督:高木裕己/撮影:中井正義/照明:長谷川明夫/録音:西島房宏
編集:高木裕己/助監督:齋藤隆也/制作担当:川下和裕/脚本取材協力:小畑輝海(更生保護法人両全会 理事長)、石附弘(日本市民安全学会会長)、大川哲次(弁護士、篤志面接委員)、石川正興(早稲田大学 法学部 名誉教授)、木村清(渋谷区更生保護協力事業主会会長)/撮影協力:川越少年刑務所、府中刑務所、松本少年刑務所、東京都板橋区立中台小学校/詩の引用元:寮美千子編『世界はもっと美しくなる 奈良少年刑務所 詩集』(ロクリン社)